



TITLE:

まるさす生誕百五十年記念會記事

AUTHOR(S):

本庄, 榮治郎

---

CITATION:

本庄, 榮治郎. まるさす生誕百五十年記念會記事. 經濟論叢 1916, 2(3): 474-480

ISSUE DATE:

1916-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/126965>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號三第

卷二第

## 論說

●在外正貨處分ニ就テ

法學博士 小川郷太郎

●穀物定期取引論

助教授 河田 嗣郎

●戦後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(二完)

講 師 米田庄太郎

## 研究

●職工ノ災害扶助制度(工場法第十五條ノ施行)

法學博士 戸田 海市

●家中工業ニ就テ

同志社大學教授 瀧本 誠一

●本邦出生率増加ノ原因(二完)

講 師 高田 保馬

## 雜錄

●經濟雜話(二)

法學博士 田 島 錦 治  
法學博士 神 戸 正 雄

●南北米經濟關係ト日支經濟關係戰後經濟問題

講 師 米 田 庄 太 郎

●歐洲戰爭ト其主要ナル社會學的因素

助教授 山 本 美 越 乃

●職工扶助令ニ就テ

助教授 河 田 嗣 郎

●英國ノ食料品ト物價

講 師 財 部 靜 治

●獨逸ノ市統計所小觀

講 師 本 庄 榮 治 郎

●まるさす生誕百五十年記念會記事

まるさす生誕百五十年

記念會記事

講師 本庄榮治郎

經濟學殊ニ人口論ノ著者トシテ有名ナルまる  
さす先生ガ西曆千七百六十六年二月十四日英國  
ニ誕生シテ以來、本年ハ恰モ百五十年ニ相當ス  
ルヲ以テ、我京都法學會ニ於テハ之ヲ記念セン  
カ爲メニ、二月十三日關係書籍ノ展覽及ビ講演  
會ヲ開催セリ。

## 展 覽 會

午前九時ヨリ京都帝國大學本部樓上ニ於テ之ヲ開ク。陳列品ハ左ノ如キ分類ノ下ニ無慮數百點ニ達シタルガ、就中、一七九八年初版ノ人口論ハ東西兩帝國大學及ヒ東京高等商業學校藏本ノモノ三部出陳セラレ、再版以後六版ニ至ルマテ全部ヲ取揃ヘ、又まるさずガ關係セル雜誌、ゑぢんばら・れぐゆう、くおーたりー・れぐゆうハ初號ヨリ全部出陳セラレ、其他ノ稀書珍籍亦少カラス、頗ル世人ノ注目ヲ惹ケリ。今出陳書籍ノ分類ヲ掲クレハ左ノ如シ。

第一類 まるさずノ論著書簡及ヒ其翻刻并ニ翻譯

一、まるさずノ論著又ハ書簡ニシテ單行、冊子ナセルモノ  
二、まるさずノ論文又ハ書簡ニシテ他ノ書籍雜誌中ニ存在スルモノ

三、まるさず論著ノ翻刻書

四、まるさず論著ノ翻譯書

第二類 まるさず人口論ニ參考引用セラレシ主要ノ論著

第三類 まるさず人口論ヲ評論セシ主要ノ論著

第四類 まるさず關係書類

一、まるさず傳記及ヒ其材料

二、まるさずノ友人及ヒ知人ノ論著並ニ傳記

## 雜 錄

三、まるさず人口論ヲ引用セシ特殊ノ論著

四、ゑぢんばら・れぐゆう、及ヒくおーたりー・れぐゆう

第五類 新まるさず主義ニ關スル主要ノ論著

第六類 人口ニ關係アル和漢文ノ論著

一、和書ニシテ明治以前ノ著作ニ係ルモノ

二、和書ニシテ明治以後ノ著作ニ係ルモノ

三、諸雜誌ニ掲載サレシ論文中まるさず人口論ニ關係アルモノ

四、支那書及ヒ朝鮮書

五、人口論參考材料

第七類 日本及ヒ支那ノ人口ニ關スル主要ナル歐文論著

一、日本人ノ論著

二、外國人ノ論著

## 講 演 會

午後一時ヨリ法科大學第一教室ニ於テ田島博士司會ノ下ニ之ヲ開ク。戸田博士開會ノ辭トシテ「學問トシテノ人口論」ヲ述ヘラルル筆ナリシモ病氣ノ爲メ缺席セラレ、單ニ講演草稿ノミヲ提出セラレシヲ以テ、コハ他日經濟論叢ニテ發表スルヲトシ、當日ハ跡部法科大學長開會ノ辭ヲ述ヘラレ、田島博士ハ國家學會評議員長穗積男爵、東京統計協會々長阪谷男爵ヨリノ祝詞

内閣統計局長花房博士、南滿州鐵道經濟調查會  
東京法科大學經濟統計研究室、社會政策學會、日  
本社社會學院、經濟學講究會ヨリノ祝電ヲ朗讀セ  
ラレタル後、順次左ノ如キ講演アリ。

第一席 まるさす傳

文學博士 内田 銀藏氏

こゝます。ろばーと。まるさすハ一七六六年二月十四日（我カ明  
和三年正月三日）英國ノさい。るつかりーニ生レ、だにえる。まる  
さすノ二子ナリ、幼ニシテ戀情、十九歳ニシテけんぶりつぢ大學  
「じーさす」かれつぢニ入り、一七八七年ニ「ばちえらー、むぶ、  
あーつ」トナル。ソノ性行學識ハ社會及ヒ學者等ノ影響感化ヲ受  
ケタリトイフヨリハ寧ロ天稟ニヨルモノ多ク、獨想的思想家ナ  
リ、常ニ自ラ考ヘ自ラ決スルノ風アリ。大學卒業後、田舎生活ヲ  
送りテソノ研究ヲ續ケ、更ニ「ますたー、むぶ、あーつ」ノ學位ヲ  
得、母校ノ校友トナリ、さい。るべりーノ牧師補ノ職ニ就ケリ。  
彼ハ三十一歳ニシテ處女作『危機』ヲ著セシガ公刊スルニ至ラ  
ス。而モソノ書中既ニ人口問題ニ關ヘル文句アルニ徴スレハ氏  
ノ人口論ハ早ク既ニコノトキニ胚胎セルモノナラン。人口論第  
一版ハ匿名ヲ以テ一七九八年ニ出版セラレ、其後獨逸、北歐方  
面、佛蘭西等ニ旅行シテ人口問題ニ關スル材料ヲ蒐集シ、世人ノ  
批評ニ晒キ、一八〇三年（享和三年）第二版ヲ刊行セリ、一八〇  
五年（文化二年）東印度會社が倫敦ノ近郊ヘリーベリーニ東印度學  
校ヲ建設スルヤ、氏ハ聘セラレテ近世史及ヒ經濟學ノ教授トナ

リ、爾後三十年ノ久シキニ亘リソノ位職ニアリテ同校ノ爲メニ  
盡ス所多カリキ。理財論、經濟原論、其他著書論文多シ。一八二  
一年經濟俱樂部成ルヤ、むりぢなるめんばーすノ一八トナリ、倫  
敦統計協會、王立協會、巴里及柏林ノ學士院等ニ何レモ會員  
タリ。一八三四年十二月二十三日（天保五年十一月二十九日）  
心臓ノ故障ノ爲メ長逝セリ享年六十八歳。思フニ人口論ハまる  
さすニ初マルニ非スト雖、尙人口論ニツイテハ氏ハ「ぐれいと、  
ふあざー」ナリトイフ可シ。ソノ學風ハ事實ヲ考慮シ經驗ヲ重シ  
ジ輕ナル概括ヲナスヲ欲セス、歴史的統計の研究ニ趣味ヲ有  
シ、卓然獨立ノ見解ヲ立テタリ。ソノ人物ハ溫厚ニシテ調和的ナ  
リ。眞ニ學德兼備ノ偉人トイフ可シ。

第二席 人口論梗概

法學博士 河上 肇氏

人口論ハまるさすノ生前六版マテ刊行セラレ、各版多少ノ差異  
アリ之ヲ概論スルコトハ不可得也。仍テ先ツ第一版ノ要領ヲ述  
ヘンニ、曰ク「人口論ヲナスニ當リテハ二個ノ前提アリ。一  
ハ食物ハ人間ノ生存ニ必要ナリト云フコトニシテ、他ハ両性間  
ノ情慾ハ必要ニシテ且殆ンド其現狀ヲ維持スベシトイフコト  
是レ也。此二法則ハ人類ノ歴史アリテ以來吾人ノ天性ニ關スル  
固定ノ法則タリシカ如シ。而シテ此等ノ法則ニ對シテハ今日マ  
テ何等ノ變化ヲ見サリシカ故ニ、將來ニ於テモ依然今日アルガ  
ママニ法則トシテ存在シ得ヘキモノ也。サテコノ二個ノ法則ニ  
シテ眞ナリトセバ吾人ハ次ノ結論ヲ爲シ得ヘシ、曰ク人口ノ繁



カ爲メニ外ナラズ。えちんばられけゆう三十七卷一月號ニハま  
るさすニ對スル反對論ヲ分類シテ(イ)自己ノ愚ナルカ爲メニ反  
對スルモノ(ロ)感情上人口論ヲ拒ムモノ(ハ)便宜論者、御都合  
主義者(ニ)自說ヲ以テま氏人口論ヨリ優レリトスルモノ(ホ)根  
柢ヨリ誤レリトイフモノ(ヘ)分類シ難キ者ノ六種トシ、ば一な  
ハ更ニ之レニ對シテ訂正ヲ試ミ、(イ)聖書ノ教ニ背クトナス  
教會の反對論者(ロ)神ノ節理ヲ拒ムモノトナス神學的反對論者  
(ハ)人権論ヲ固持シテ他人ノ說ヲ容レサルモノ(ニ)常識ニ反ス  
トカ又ハ救済者ノ慈善心ヲ傷クトナス倫理的及ヒ通俗的の反對論  
者ノ四種トナセリ。まるさすニ對スル反對論者中最モ出色ノ  
モノハ生存權ノ立場ヨリセルモノニシテ後日あるべし。らん  
げ、かうつきー、へるつか等ノ立論ノ根柢ヲナスモノナリ。まる  
さす當時ノ學者ニテハあーさーやんぐ并ニこーごういんヲ其ノ  
主ナルモノトスト雖、仔細ニ觀察スレバベリ、すぐるーぶ、こ  
んごるぜー、うんーらんご、はすりつご等アリ。就中有力ナルハ  
こべつご及ビぶれー也。まるさす人口論ノ賛成者中ニモちやる  
まーすノ如キハ生存權ニ就テハ反對說ヲ採ル。生存權ノ主張ト  
人口ノ法則トが果シテ兩立スルヤ否ヤハ、今日尙解決セラレサ  
ル問題トシテ、最モ研究ニ値スルモノ也。

#### 第四席 馬ノ人工受胎ヲ論シテ「人口論」

ニ及フ

醫學博士 石川日出鶴丸氏

馬ハ運輸機關トシテ、或ハ軍用トシテ、又娛樂用トシテ種々  
ノ用ニ供セラル、我國ニ於テハ馬政局アリテ種々ノ方法ニヨリ

テ馬匹ノ改良ニ從事セルガ、人工受胎モ亦蓋ソノ一方法也。人  
工受胎ハ一三二二年頃既ニ行ハレタル由ナルモ學術的ニ之ヲ研  
究セシハいダあゝのふ氏ニ始マル。人間ノ人工受胎ニツイテハ刑  
事上民事上ノ問題トナリシコト少クトモ二回アリ、ソノ實際上  
ノ效果ニツイテハ種々ノ報告アルモ、不妊者百人中一人ノ成功  
率ヲ擧グルユトヲ得、まるさす氏ノ人口論ハ人口ト食料トノ關  
係ヨリ說ケルモノナルガ、馬ノ如キ動物ニ於テモソノ營養狀態  
ノ良好ナルモノハ繁殖率モ亦大ナリ。而シテ醫師ナルモノハ人  
口論トハ反對ノ方向ヲトリテ人間ノ多産ヲ助ケルモノナルガ、  
カクテ人口増加ノ率ヲ高クシ、爲メニ人口論ノ法則ニ支配セラ  
ルル幾多ノ現象ヲ生スルニ至ルモノナリ。

#### 第五席 日本及ヒ支那ノ人口論

同志社大學教授 瀧 本 誠 一氏

東洋ニ於ケル人口論ハ經濟上ノ打算ニ出テシモノ少ク、主トシ  
テ迷信ト國家ノ必要ニ應スルモノニ點ヨリ論セルモノナリ。支  
那ニオケル人口論ノ根本思想ハ保息、庶富教等ノ語ニヨリテ明  
カナルカ如ク人口ノ多キコトヲ必要トシタリ、後世ノ學者中ニ  
ハ孔子ノ庶富教ヲ信條トシ孔子ノ教ナルカ故ニ人口ハ繁殖セシ  
メザル可ラズトナス王道論者ト國チ富マシ稅源ヲ豐ニセンカタ  
メニ人口ノ繁殖ヲ期スル霸道論者トアリ。ソノ何レタルチ問ハ  
ス人口ノ増加ヲ必要トセシ點ハまるさすノ所說ト反對ナリ。尤  
支那ノ農政全書中ニ生人ノ率ハ大抵三十年ニシテ一倍ヲ加フ、  
大兵革アルニアラザルヨリハ減スルコトヲ得ズトイヒ、まるさ

すが二十五年ニシテ人口ハ一倍ストイヘルト相似タルカ如シト  
雖人口過多ノ弊ヲ説キシモノハ未ダ之レアラサル也。

日本ニオケル人口論ハ支那思想ヲ繼承セル所多キカ故ニ彼此相  
似タル所多シ。人口ノ増殖ヲ以テ祖宗ノ神靈ニ副ヘルモノナリ  
トスル神道論者アリ。佐藤信淵ノ如キモ人民ノ繁殖ハ神意ナリ  
ト云ヘリ。或ハ封建的思想ヨリ人口ノ増加ヲ喜ヒシモノアリ。  
即チ戰時軍役ニ徵スルモノ多ク、平時ニハ農民多ク納税ノ豐ナ  
ランコトヲ期スルノ念ニ出ツ。徂徠ハ「鈐錄」ニ於テ庶ハ衆庶ノ  
義ニシテ人数多キ義ナリ國ノ治メ方ハ人数多クスルチ第一ト  
ストイヒ、「政談」ニモ人口ノ減少ハ武士道ノダメヨシカラズ  
トイヘリ。徳川時代ニハ泰平打續キシタメ軍事上ノ必要ヨリモ  
墾田ノ財政窮迫ヲ助クルカタメニハ租税ヲ納ムル道具トシテ  
ノ人民ノ多キコトヲ期シタリ。而シテ日本ノミナラス支那ニ於  
テモ所謂人口ナル文字ハ一般ノ國民ヲ指スニアラズシテ租税ヲ  
納ムル者即チ課戸課丁ノ如キモノヲ指シ、人口數ト稱スルモノ  
ノ中ニハコノ課戸課丁等ノ數ノミニ關スルコト少カラス。東洋  
ノ學者ガ人口ノ減少ハ惡政治ノ結果ナリトイヘルハ政治惡キカ  
爲メ農民ハ本業ヲ捨テテ居村ヲ離レテ籍外ノモノトナルコト多  
キヲ云ヘルモノナリ。西洋學者ニシテ政治惡キタメ人口減少ス  
トイヘルハ惡政ノ結果、人民ノ生理上、心理上ニ影響ヲ及ボシ  
人ノ生産力ヲ減スルコトナイヘルモノニテ、其ノ意味相同シカ  
ラス。要スルニ東洋ノ人口論ハ戸口論ナルガ、之ハ財政上及ヒ  
農政上ヨリ觀察シタルニ外ナラズ。

## 第六席 新なるさす主義

法學博士 神戶正雄氏

新まるさす主義ノ意義及ヒ沿革。新まるさす主義ハ單ニまるさ

## 雜錄

す主義トモイフコトアリ。議論のナルト實際のナルトノ二種ア  
リ。コノ主義ノ要素ハ相當ナル早婚ヲナシ而モ受胎ヲ豫防スル  
モノニテ子ノ多ク生マルコトヲ防グヲ以テ手段トス。舊まる  
さす主義ノ如ク晚婚獨身等ノ道德的抑制ヲ獎勵セズ。ソノ目的  
ハ議論的ノモノニアリテハ社會改良、弱者救済、人口過剰ヨリ生  
スル危險、即チ一部社會ニ存スル貧困、犯罪等ヲ除去セントスル  
ニ在リ。實際的ノモノニアリテハ各家族ノ生活ノ安慰、子供ノ生  
活ノ保障、家ノ財産上ノ格式ヲ維持スルコト、父ノソノ子ニ對ス  
ル名譽心、婦人ノ美容保護、社交欲ノ満足、奢侈流行欲ノ満足、婦  
人ノ自尊心等ノ理由ニヨリ中流以上ノ家庭ニ於テ養ヒ得ルニ拘  
ラズ子ノ出生ヲ少クセントスルニ在リ。次ニコノ主義ハ二兒制  
ヲ説クモノ、コレハスヘテノ新まるさす主義ニ共通ニハアラスシ  
テ常案ナリ。又婦人ノ過勞ヲ防グトノ説ハ偶素ニ過キス。コノ  
主義ハ議論的ノモノヨリモ實際的ノ方早ク發達シ、佛國ニ於テ  
ハ十九世紀ノ初メヨリ不言實行セラレ、都會ノミナラス、田舎ニ  
モ行ハレタリ。理論的主義ハ英國ヲ本場トス、一八七六年ニの  
ミ、人ノ著書ガ風俗紊亂ナリトセラレシヨリ却テ注意ヲ惹キ、遂  
ニ一ノ團體ヲ生ジ和蘭、獨逸等ニモ漸次波及スルニ至レリ。  
コノ主義ノ批評。コノ主義ノ手段ニ對シ反自然的ナリ反道義的  
ナリ殺人ナリ反健康のナリトイフカ如キハ辯護スヘキ餘地アル  
批難ナレドモ、コノ手段カ濫用ノ弊ニ陷リ風俗ヲ亂シ、富者ノ如  
キ餘裕アル者マテガ之ヲ惡用ストイフハ辯護シ難キ批難ナリ。  
次ニ目的ニツイテハ、先ツ理論的ノ方ヨリ見ルニ、コノ主義ハ人  
口過剰ノ社會上ノ弊ヲ救フニ汲々トシテソノ生産上、國防上、文  
明上ノ利益ヲ無視ス。又人口多クトモ今日ノ社會ニテハ尙コレ  
等ノ人々ニ仕事ヲ與フルノ餘地アリトノ批難アリ。實際的ノ方



ニ就テハ、ユノ主義ハ個人本位の理性ヲ有スルモ社會的國民的理性ヲ有セス、又中以上ノ富裕階級ニ行ハレ下層社會ニ行ハレサルタメ、社會ニ優良ノ分子ヲ増加セシメズ、又カクノ如キコトノ行ハル社會的精神ハ保守退嬰的ニシテ企業ノ發達ヲ妨グルコト大ナリトノ批難アリ。次ニ二兒制ニツイテハ若シコレヲ實行スルトキハ人口ハ結局減少スルコトナルヘク、婦人ノ過勞トイフコトニ就テモ多産能力アル者ハ天稟ノ性ナレハ必スシモ過勞ヲ生スルコトナカルヘシトノ批難アルヲ免レス。要スルニ新まるさす主義ハ現今ノ社會ニテハ之ニ贊成スルコトヲ得スト雖、若シ世界ガ四海同胞ノ國家ヲ作ルニ至ラバ、之ヲ優種學ト結ヒ付クテ人工的制限ヲナスモ不可ナカル可シ。

# 第七席 戰後ノ人口問題

法學博士 小川 郷太郎氏

まるさすヨリ現今ニ至ル迄ノ人口論ノ研究アリタレハ、余ハ將來人口論ハ如何ニナリ行クカヲ研究セントス。歐洲戰後ニハ人口減スベク、殊ニ中年者ノ數減少シ、之ニ比シテハ、老年者少年者ノ數増加スヘク、又中年者ノ中ニ就テモ、男子ハ女子ニ比シ大ニ其數ヲ減スベシ、ソレヨリシテ種々ノ經濟問題殊ニ勞働問題、婦人職業問題、移民問題ヲ生スベク進テハ文明并ニ風教ノ興廢ニ關スル問題ヲモ惹起スベシ、是等ノ諸問題ハ人口問題ニ細リテ解決セサルベカラズ八口ニ關スル政策ハ戰後ニ至リテ最も緊要トナルベシ。是レ余ノ茲ニ説カントスル趣旨ナルガ時間ノ餘裕ナキタメ講演ヲ中止シ他日經濟論議まるさす紀念號ニ於テ之ヲ發表スヘシ。

續イテ田島博士ノ閉會ノ辭アリテ散會セシハ午後七時ナリキ。ソレヨリ有志ノ晚餐會ヲ開キ

一タノ歡ヲツクセリ。

茲ニ本稿ヲ終ルニ臨ミ特ニ記スヘキコトハ、本會ノまるさす記念會開催ノ舉アルヤ内閣統計局、東京帝國大學法科大學、東京高等商業學校、慶應義塾大學、花房博士、新村博士、内藤博士、武藤長崎高等商業學校教授、岡本京都大學事務官、鈴木芳太郎氏、小島祐馬學士等カンノ珍藏セララル書籍ヲ出陳セラレ、又前述ノ各學會其他ヨリ懇篤ナル祝詞祝電ヲ添クシ、福田博士ノ如キハ態々東京ヨリ入洛セラレ、内田、石川兩博士、瀧本教授等ト共ニ亦甚大ナル同情ヲ以テ或ハ多數ノ珍書籍ヲ出陳セラレ、或ハ講演ヲ試マレ又當日名古屋、神戸、大阪各地方ヨリ入京セラレタル篤志ノ人々モ少カラズ、各方面ヨリ深甚ナル同情ト多大ノ贊助トヲ得タルハ吾人ノ銘記シテ忘ルル能ハサル所也。タダ遺憾ナリシコトハ講演ノ際無慮七百ノ聽衆ヲ容レタルモ、約同數ノ來會者會場ニ入ルコトヲ得スシテ、空シク歸去セラレタルノ一事ナリトス。今回ノ舉ガカクノ如ク多大ノ成功ヲ告ケタルハ、全ク學内學外各方面ヨリノ同情ノ厚カリシニヨルモノニシテ本會ノ深ク感謝スル所ナリ。